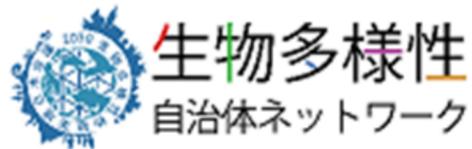


稲沢市環境基本条例に基づく「第3次稲沢市環境基本計画」の環境目標である「人と自然がふれあえる快適な環境の創出」を具体化する上で、稲沢市に生息・生育する様々な生き物と、それらの生息・生育環境を保全しながら、自然環境の持続可能な利用を推進するための計画です。

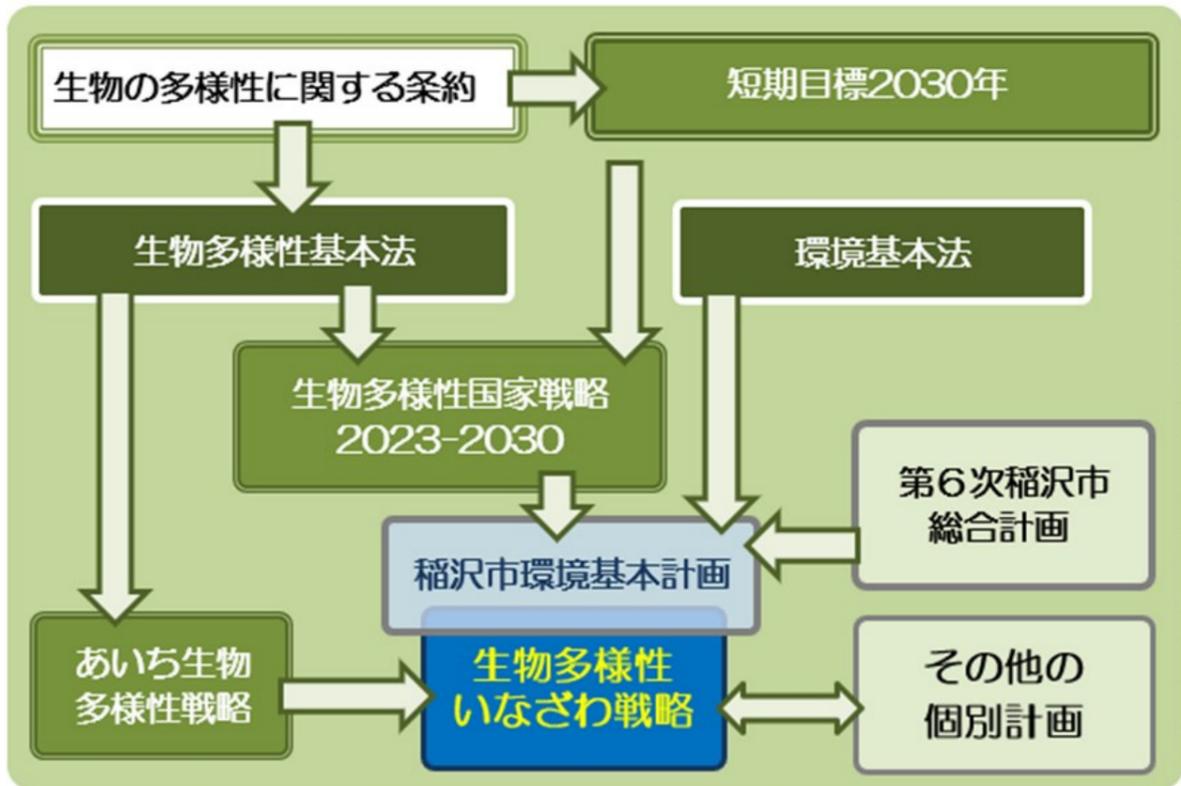
計画期間: 令和元(2019)年度～令和10(2028)年度
(10年間)

前期と後期各5か年とし、令和5(2023)年度は進捗状況に応じて見直しを行います。



稲沢市は、「2030生物多様性枠組実現日本会議」と協働する生物多様性自治体ネットワークの参画団体です。

生物多様性いなざわ戦略の位置付け



【発行】 稲沢市 経済環境部 環境保全課
住所: 〒492-8391 愛知県稲沢市中野川端町74番地
電話: 0587-36-3710(ダイヤルイン)
HP: <http://www/city.inazawa.aichi.jp>



©稲沢市 いなっぴー

生物多様性いなざわ戦略 ～「自然と共生する」稲沢～(概要版)



令和6(2024)年4月発行

生物多様性とは

私たちの暮らしは、食料や水、気候の安定など、多様な生物が関わりあう生態系からの恵みによって支えられています。

★生態系の多様性

それぞれの地域に形成されています。

河川、森林、湿原、里地里山、草原、人工林などといったいろいろなタイプの生態系があります。

★種の多様性

色々な動物、植物や菌類・バクテリアなどが生息・生育しています。

★遺伝子の多様性

同じ種であっても遺伝子レベルで違いがあります。

多様な生物が関わり合う生態系からの恵み

日本の生物多様性の危機

★第1の危機

人間活動が自然に与える影響が原因となります。

★第2の危機

里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下によります。

★第3の危機

外来種や化学物質が悪影響を与えます。

★第4の危機

地球温暖化が影響します。



絶滅危惧種 ビロードテンツキ
サリオパーク祖父江内

★欠かすことができない大気と水

植物が酸素を生み、森林が水循環のバランスを整えます。

★食料などの提供

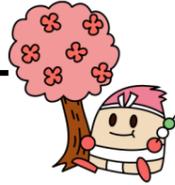
食卓を飾る野菜、魚、肉などの食料や新聞や本などの紙製品も日常生活で利用されています。

★自然に守られる暮らし

豊かな森林や河川の保全は、安全な水の確保や山地災害の軽減、土壌流出防止など安心して暮らせる環境の確保につながります。

★文化的な価値

地域の特色ある風土に根ざした食文化や芸能、自然とのふれあいから生まれる豊かな心を育みます。



稲沢市動植物生息調査

委託先:「子どもの学び支援Moegi21」
期 間:平成23(2011)年度から平成27(2015)年度までの5年間

『木曾川の河川敷(「サリオパーク祖父江の国営木曾三川公園 ワイルドネイチャープラザ)には、かつて木曾川の砂が西風によって吹き上げられ、河川砂丘が発達していた。それが木曾川大堰によってせき止められ、豊富な水が湛えられ、そのおかげで自然林や葦原が発達して多くの生き物の生息域となったと考えられる。また、このダム湖のおかげで旅鳥の休息池としての役割も果たし、たくさんの種類の鳥が観察される場所になってきている。』

【野鳥】

5年間で絶滅危惧種のハヤブサや準絶滅危惧種のオオタカやミサゴなど、174種の野鳥の飛来を確認しました。

【昆虫】

昆虫もワイルドネイチャープラザに多く見られました。

【希少な動植物】

環境省や愛知県のレッドリストに掲載される希少な動植物が生息しています。

野鳥30種 植物 4種 魚類 2種
貝類 3種 両生類 2種 哺乳類 1種

【水生生物】

市内の田畑の多くが宮田用水系の水を利用しているので、市内の水路に生息する水生生物は共通していました。外来種のカダヤシ、サカマキガイ、スクミンゴガイ、ミシシッピアカミミガメなどは個体数が増えていることが確認できました。

稲沢市の生き物

稲沢市動植物生息調査報告書 環境省 (平成23年度) 愛知県 (平成23年度) 稲沢市 (平成23年度)

種別	種名	生息数(観測数)	備考		
野鳥	ハヤブサ	174	絶滅危惧種		
	オオタカ	174	準絶滅危惧種		
	ミサゴ	174	準絶滅危惧種		
		
	昆虫	
		
		水生生物
		

祖父江自生ヘイケボタルの生息調査結果

NPO法人祖父江のホタルを守る会
平成16(2004)年から平成30(2018)年までの15年間

◎調査場所は、平成16(2004)年以降生息が確認された125地点。

◎各調査場所の生息数(観測数)は、平成19(2007)年以降急激に減少しました。

◎生息場所の減少も激しく、125カ所の観測地点が現在では10カ所程度になっています。

特に減少が甚だしいのが水田で、76カ所から5カ所まで激減しました。

【考えられる原因】

- ・使用される農薬の種類が変化したこと。
- ・畦畔等への除草剤の使用が急増したこと。
- ・コンクリート製の用・排水路でも、底面のわずかな泥が水の生き物の生き残りのための重要な場所となっているが、それが高温、乾燥にさらされたり掃除されて無くなったりすること。
- ・生息場所でも、草本の密集地帯の伐採により、冬季にホタル等にとって貴重な湿潤域が減少したこと。



写真提供: NPO法人祖父江のホタルを守る会



(1)豊かな自然環境、良好な景観、歴史的・文化的資源の保全

1) 豊かな自然環境・地域資源の保全と活用

木曾川周辺の自然環境や公園・緑地、河川、農用地などの豊かな自然環境・地域資源を引き続き保全・活用します。特に、農用地、河川をつなぐ用水路やあぜ、土手などの多様な生物の生息空間の保全を推進し、生態系ネットワークの形成に努めます。

2) 良好な景観、歴史的・文化的資源の保全

農地周辺の用水路やあぜ、土手などの生物の生息空間を保全します。また、野鳥、昆虫、魚類などの身近な生物の保護、身近な生物の生息空間となっている樹林、社寺林や屋敷林などを保全します。

(2)身近で豊かな緑づくり及び水辺の創出、ビオトープなどの整備

1) 身近で豊かな緑づくりの推進

市面積の4割以上を占める田畑において、農作物の施肥基準に沿った適正な施肥の推進や田畑も含めた除草剤の適正使用及びその啓発に努めます。さらに、環境負荷の低減を重視した環境保全型農業を推進する取組が一層求められており、具体的には、農薬・肥料の低減に向けて、持続性の高い農業生産方式の導入の促進を図ります。

2) ビオトープなどの整備、管理や啓発

木曾川の恵みを受け、自然環境豊かな地域を形成し、公園や緑地も順に整備されていますが、ビオトープなども整備し、孤立した自然をつなげ、生態系をネットワーク化し、生物が生息できる場を創出します。また、民有地における緑化を支援します。

(3)外来種対策

「外来種」は由来の国内外を問わず、本来の生息地とは違う地域に生息している生物を指します。

外来種の導入を避け、在来種の積極的な利用を促進します。

外来生物のうち、生態系や農林水産業、人の生命・身体に被害を及ぼしているものや及ぼすおそれのあるものの中から、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)に基づき指定された生物を特定外来生物と言います。

(4)人と自然との豊かなふれあいを 実現する仕組みづくり

私たちは、自然とふれあうことで心が癒され、自然を大切にすることを学びます。そして、生活環境の中でふれあう身近な生き物に対する愛情や弱いものを守る心が芽生えて豊かな心が宿り、いのちの尊さを学びます。

(5)広域的な取組

生物の多様性は、行政の区域内だけではなく、広域的に理解し、取り組んでいくことが望まれます。稲沢市は、NPOや団体、事業者などとともに尾張西部地域において平成28(2016)年11月22日に発足した尾張西部生態系ネットワーク協議会の会員として活動しています。

＜特定外来生物で規制される事項＞

(資料) 環境省HP



自然観察会の様子
NPO法人祖父江のホタルを守る会の実験田にて

ビオトープ概要図
豊田合成(株)
平和町工場内

